

いじめ対策：面談とアンケートで早期対応を

平成 19 年度の問題行動等調査の結果から、「いじめの発見のきっかけ」は、小学校では、

アンケート等 36.1%

本人から 22.3%

保護者から 19.8%

中学校では、

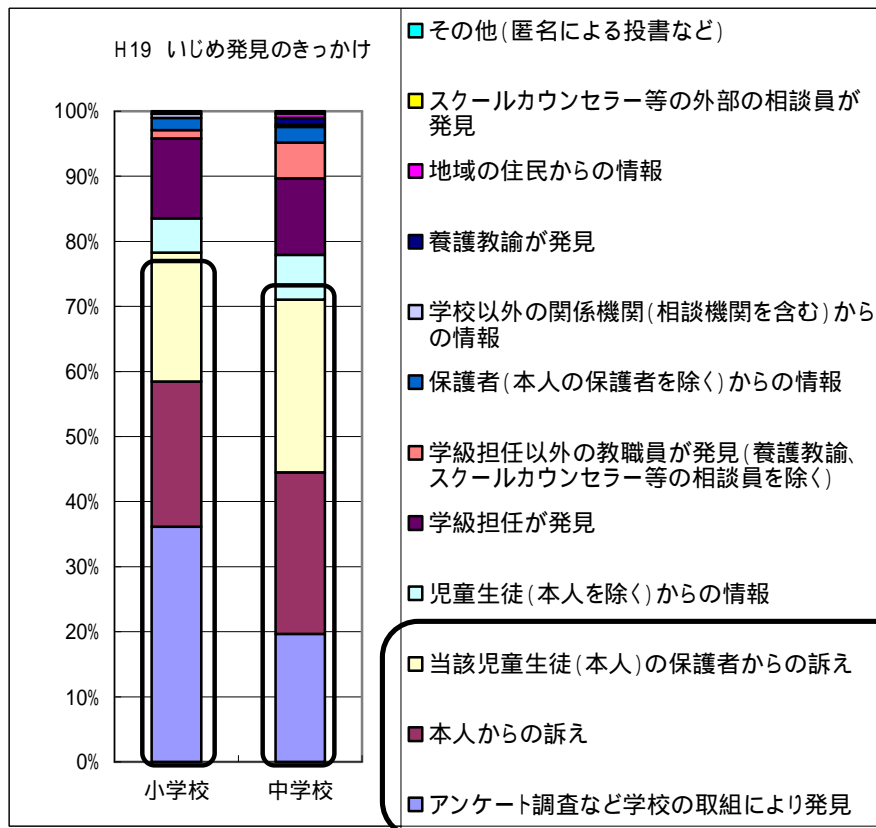
保護者から 26.6%

本人から 24.8%

アンケート等 19.7%

でした。

アンケートや面談を実施し、細やかな教育相談の中で、早期に発見して細やかに対応していくことが必要です。



いじめの訴えがあったとき

「逃げるな」「隠すな」「嘘をつくな」が鉄則

「逃げるな」: 生きている子どもを相手にしているのだから何か起きるのは当たり前です。やっかいな事が起こったと思わず積極的に対処し、また「いじめ」が収束したことを確認できるまで手を抜かないことです。

「隠すな」: 自分のところで起きたということは、他の学級・学年でも起こり得ることです。担任一人で抱え込まないで、学級の課題としてオープンにし、全体の力で図っていくことが重要です。

「嘘をつくな」: 特に保護者に対して、事実を確認しながら公正に誠実に対応することが求められます。そのためには保身を図るような嘘はつかない勇気が必要です。

いじめが起きた時、自己責任とか指導力不足などと言って個人を責めるのではなく、誰もが弱音をはける職場でありたいものです。また、問題がないことが良いことなのではなく、問題が起きた時、みんなの力で解決できる、あるいは解決しようと努力する学級・学校こそ素晴らしいのです。

(自立支援相談員 菊池 和彦)

【面談とアンケートを関連づけた例】

「先生! ちょっと聞いてくださいよ・・・」と
 標題をつけて、「友達のこと」「家族のこと」
 「クラスのこと」「学習のこと」「異性のこと」
 「部活のこと」「将来・進路のこと」「その他」
 という項目を立て、各項目ごとに
 2～4の簡単な質問に答えるアンケートを実施
 その後、担任養護諭などが面談を行ったり
 必要な場合は、職員で共有化したりしながら
 指導を行っている。(県内O中学校の実践例)

不適応対策に係る情報を発信していきます。不適応対策指導の参考に活用していただければ幸いです。

岩手県教育委員会事務局学校教育室生徒指導担当 (019-629-6145)

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=1813&ik=3&pnp=86&pnp=1779&pnp=1813>